

## 新任職員のご挨拶

皆様はじめまして、霊園スタッフの松本奈緒子です。令和4年の夏の終わりに御縁をいただき、10月中旬より浦和霊園のスタッフになりました。新しい環境の中、日々勉強中でございます。

皆さまがより快適にご利用いただけるような霊園の維持・管理に勤め、業務にまい進する所存です。寒さも日毎に増します今日この頃ですが、墓参りいただいた際には元気にご挨拶させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 寶頭龍馬菩薩様をお参りしましょう

霊園のお墓に行きますと、観音様のお使いである「寶頭龍馬菩薩」様が、すぐ右手に見えます。いつも皆様のお墓を見守り、またご家族の方の安寧を願っていらつしやる仏さまです。お参りの際には、まず菩薩様にお参りして、ご先祖様の供養を願い、それから各々のお家の墓所をお参りしましょう。



寶頭龍馬菩薩

## 仏教勉強会のご案内

「仏教に興味がある」「写経や写仏をやってみたい」「大松院にお参りしてみたい」という方はどうぞお気軽にご参加ください。

◇場所 大松院

さいたま市浦和区東高砂町19-4

◇日時 月1回 日曜日 午前10時半～12時

◇問い合わせ先 大松院 担当 小林智観

☎048-832-9205

2月12日「写経」

3月19日「お釈迦様の言葉を読む」

4月9日「写仏」

5月14日「お釈迦様の言葉を読む」

6月11日「絵手紙で暑中お見舞いを作る」

※個別の写経、写仏も随時受け付けております。ご希望の方は、大松院までご連絡ください。

※初めてご参加される方は、右記 問い合わせ先の電話番号までご連絡ください。

## 「詠歌のご案内

ご先祖様の供養のために、また、ご自身の信仰を深めるために、「詠歌をお唱えしてみませんか？興味ある方は、一度聞くだけでも結構です。お気軽にお問い合わせください。

◇問い合わせ先 管理事務所 担当 三浦清志

☎048-812-1121



# 浦和霊園だより

VOL. 27

令和4年12月号

TEL 048-812-1121

FAX 048-878-7272

編集者

副住職 三浦清志

## ご挨拶



大松院住職  
片岡智鶴

皆様 こんにちは。令和四年もあつという間に過ぎ去り、まもなく新年を迎えようとしております。コロナ禍が始まって3年ほど、それだけでも大変なときに、ロシアとウクライナで戦争勃発。日本では、安倍元総理の襲撃から、統一教会問題など日々目まぐるしく動いており、気が付けば年の瀬だったという感じがいたしました。当山においてもお世話になった方が亡くなり、大変な一年でありました。

新しい年を迎えるにあたり、心から思うことは、平和で心安らかな年であってほしいということです。今年起こった様々な問題は、感染症のことは除いても、すべて人間関係からきている問題ではないかと思えます。人と人がかわりあうとき、どうしても人生観、思想、意見の違いはあるものだと思います。むしろ、まったく同じ人などいないのではないかと存じます。そのような現代にあって、心安らかな日々を過

ごすには、どうしたらよいのでしょうか？答えは色々あると思いますが、私は、多様性というものを受け入れていくことではないかと考えます。一つのニュースを取り上げて、その人であったり、物事がいかにもすべて悪いことのような扱いをするのは、とても危険なことだと思います。勿論、法律を破ることはいけないことです。しかし、一つのものの見方に偏ることは、本質を見る事が出来なくなってしまうのではないかと感じております。金子みすゞさんの詩に「みんな違って みんないい」という言葉が出てきます。木々や花々も種類が同じでも、よく見ると一つ一つ違うわけです。人間も、たとえ家族、兄弟姉妹であっても、一人ひとり性格も違いますし、容姿も違ってきます。お互いがお互いを認め合う、心の広さ、豊かさがこれからの時代に求められることではないでしょうか？そして、一日も早く、戦争のない疫病のない平和な世の中になってほしいと願うばかりです。

ご詠歌の「同行和讃」という曲には、次のように出てまいります。「われら仏のみ子として、至心に唱うる真言の 功德あまねく 世に照りて 平和の浄土いたらん」 ご先祖様、仏様を思うとき、人は手を合わせ心静かになります。大切な家族の戒名、仏様のお名前を呼ぶ

## 令和5年行事予定

○節分豆まき式  
1月29日(日)  
10時 12時 14時

○合同慰霊祭  
7月13日(木)  
8月13日(日)  
11時

○送り火の夕べ  
8月15日(火)  
17時半

## 令和5年回忌表

1周忌	令和4年
3回忌	令和3年
7回忌	平成29年
13回忌	平成23年
17回忌	平成19年
23回忌	平成13年
27回忌	平成9年
33回忌	平成3年
50回忌	昭和49年



↑浦和霊園公式HP



↑大松院Facebookページ

とき、その瞬間、瞬間にご先祖様、仏様と一体になっていきます。平和な時間だと思えます。少しでも、浦和霊園のご家族、ご親族が仏事を通じて、穏やかな日々を送られますよう、また新しい年が、皆様にとって素晴らしい一年になりますようにお祈り申し上げます。年明け早々には、霊園の恒例行事であります、「節分豆まき祭」を行います。感染対策をしながら、分割での開催になりますが、皆様といっしょに厄除けの豆まきをして、良い一年にしていきたくと存じます。

来年の干支、癸卯（みぞのとう）年は、今までの努力が実り大きく飛躍する年だそうです。ウサギのように、ぴよーんと大きく飛躍する一年でありますことを祈念してご挨拶いたします。合掌

## 暮らしの中の仏教用語

### 「勘弁」(かんべん)

「勘」は調べること。「弁」は見分けることを意味します。本来は悟りの到達度が浅いか深いかを調べるための問答の事を「勘弁」と言いました。

勘弁の結果、合格すれば次の修行段階に進むことが許されたので、後に転じて「許す」という意味で用いられるようになりました。言葉は本当に面白いですね！



# お盆合同慰霊祭& 送り火の夕べ 〆報告

去る7月13日、8月13日に霊園のお盆のご供養として「合同慰霊祭」を、8月15日は「送り火の夕べ」をお勤めさせていただきました。今回は、コロナ禍以降では、初めて礼拝堂に入っていたらいたの法要となりました。人数限定としましたので、お家によっては、入室出来ない方もあり、大変、迷惑をおかけした所もあつたかと存じます。しかし、大勢の方にお越しいただき、特に送り火では、皆様お揃いで、一緒にご先祖様をお見送り出来て、とてもうれしく思いました。来年以降は、何とか通常通りできるようにと、心からお祈りしております。ご参加された皆様、本当にありがとうございました。

合掌  
三浦清志 記



## 仏さまの心に気が付く

蓮の花を見て  
泥にまみれぬ浄らかさを知り  
その果実に  
仏が宿るありがたさを観ず

『般若心経秘鍵』

お大師様（弘法大師空海）は、人という存在を蓮華にたとえて「誰もが蓮華のように浄らかに、仏様と同じ心を生まれながらにして持っているのだよ」とおっしゃっています。しかし私たちは仕事や勉強の成果はもろろん着ているものから食べるものまで他人と比較し、より良いものを求めがちです。はたしてそんな自分のどこに仏さまと同じ心がそなわっているのでしょうか。

例えば心が痛むようなニュースを聞いた時、誰に頼まれるわけでもなく私たちは悲しい気持ちになり、被害にあわれた方の悲しみが少しでも和らぐようにと願い、自然に気持ちを寄せることができます。自分に何か得があるわけでもないのに、自然に湧き上がるその慈しみの心こそが、私たちが本来持っている仏さまにつながる心なのではないでしょうか。それはあたかも泥の中に根を張りつつも、太陽に向かって大きく花開く蓮のように、私達に具（そな）わっている仏と同じ心が芽吹いた時なのです。

## 十三仏について ②

### 【二七日忌 釈迦如来】

「釈迦如来」はいわゆる皆さんご存じのお釈迦様です。今から二千五百年前、インドで皇太子の地位を捨てられて出家し、6年間の苦行の後、宇宙の真理、人生の道をお悟りになられました。29歳のとき出家されましたが、その理由は「この世はすべて苦しみである」と断じられ、その苦しみからの解脱を目指して、修行に入られました。仏教では「生・老・病・死」の四つの苦しみと⑤愛別離苦（愛するものとの別れ）、⑥怨憎会苦（嫌いな会いたくない人に会う苦し



大切なのは、自身に芽吹いた仏様の心を、花開くその時まで諦めずに育てること。そしてもう一つ、誰の心にも同じ仏心があると知ることです。そのようなして周りの世界を眺めると、いつもと違った景色が見えるかもしれません。  
小林智観 記



十三仏

み)、⑦求不得苦（もとめる物事がえられない苦しみ)、⑧五蘊盛苦（体の働きを思い通りに制御できない苦しみ)をあわせて「四苦八苦」としています。

お釈迦様は、苦行すれば苦しみを取り除くことが出来ると考えていましたが、結局、覚りを得られず、諦めて山から出てきてしまいます。心身ともに衰えていたところに、スジャータという娘さんから一杯の乳がゆを供養され、生気を取り戻して尼連禅河で沐浴し、その後にはブツダガヤの菩提樹の下で座禅をして、遂に35歳のときに覚りを成し遂げられたのです。



釈迦如来

自分の欲にくらまされ、人間中心に物事を進めてしまう現代の私たちに、お釈迦様は「いのちは尊いものである。しかも人の命だけではない。

## 節分豆まき式のご案内

この世に存在する命のすべてが尊いのである。人間はその命をいただいて生きている。そのことに気が付きましょう」とおっしゃっています。二七日忌は、そのような命について思いを巡らせるときなのかもしれません。

(次回 三七日忌 文殊菩薩へ続く)

毎年恒例となっております「節分豆まき式」を執り行います。何とか以前のように通常開催したいと検討していましたが、感染対策の観点から、3部制にして行うことといたしました。一年に一度、霊園での楽しい行事に、大勢の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

記

- ◆日時 令和5年1月29日(日)
- ①午前10時より
- ②正午より
- ③午後2時より
- ◆場所 浦和霊園会館2階 礼拝堂
- ◆申込 霊園管理事務所

☎ 048-812-1121

FAX 048-878-7272

- ◆参加費 一世帯あたり 金二千元(お持ち帰り用の福豆もご用意しております)
- ※別紙 申込書を同封しております。そちらの要項をご確認いただき、お電話、又はFAXにてお申し込みください。
- ※一つの会に申込が集中した場合、ほ

## 年男・年女の方 厄年にあたる方

- 男性 4・25・42・61歳の方
- 女性 4・19・33・61歳の方
- ※各年齢の前後に、前厄、後厄があります

かの会への振替をお願いすることがあります。当日は、体調を考慮していただき、発熱等、すぐれないときは参加をご遠慮ください。

※感染症拡大などにより、開催内容を変更、又は中止することもございます。予めご了承ください。

